



田植えの準備が遅れています 老化苗を防ごう！

ＪＡたきかわ営農部
空知東部地区農業改良普及センター

融雪の遅れと5月の天候不順により耕起・代かき作業が遅れています。5月20日以降、気温は平年並の予報が出ている事から、老化苗の防止に努めましょう。

1. 低温が続く、過湿な管理では苗立枯病(ムレ苗)の発生

朝、床土が濡れているのに、葉に露の付き方が少ない苗を中心に観察し、根が茶色くなって傷んでいけば、

タチガレエース液剤 500倍液 500cc / 箱当たりかん注

2. 早期異常出穂を防ぐ！～日中の温度25 以上に上げない

育苗後半 2.5 葉以降にハウス内の気温(地温)が 25 以上になると早期異常出穂の恐れが高まり、特に成苗ポット苗の「ほしのゆめ」は影響を受けやすく、注意が必要です。十分な換気と高温時の日中かん水が効果的です。

3. 老化苗を防ぐ！～養分不足、水分不足にさせない

3葉以降は、水分不足によって葉がヨレないように晴天・高温時は日中もかん水する。

追肥は、移植3～5日前に(成苗ポット苗は3.0～3.5葉時にも)行う。

	箱、冊当たり	坪当たり
N P 化成 5 7	7 g	1 2 0 g
硫 安	5 g	9 0 g
液肥(18 - 6)	100 倍液で 0.5 リットル	100 倍液で 9 リットル

4. 十分な「ならし」を！

3.0 葉以上になったら、18 ～外気温にならし、移植1週間前からは、夜間も開放し、十分、外気にならしを行いましょう。ただし、天候不順(霜、強風時)時の無理な「ならし」は逆効果となるので注意しましょう。